

相馬市立山上小学校

◇ 研究の概要

1. 研究主題

「家族とのきずなを深め、生き抜く力をはぐくむ
家庭科の学習はどうあればよいか。」

～ 基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、
日常生活で活用する能力を育む授業づくり ～

2. めざす児童の姿

- 家族の一員として、自分の生活を見つめ課題に気づく子ども
- 身に付けた知識や技能を活用し、進んで課題を解決する子ども
- 家族と豊かに関わり、進んで生活をよりよくしようとする子ども

3. 研究の見通し

(1) 研究仮説

問題解決的な学習を通して、次のような取り組みを継続していけば、児童自身に基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、思考力・判断力・表現力等の日常生活で活用する能力を育むことができるであろう。

- ①題材で身に付ける基礎的・基本的な知識・技能の明確化
- ②実践的・体験的な活動を通じた科学的な理解
- ③個に応じた指導や学習形態の工夫
- ④成長を実感できる評価の工夫
- ⑤家庭・地域との連携

(2) 研究仮説のとらえ方

①「問題解決的な家庭科の学習」とは

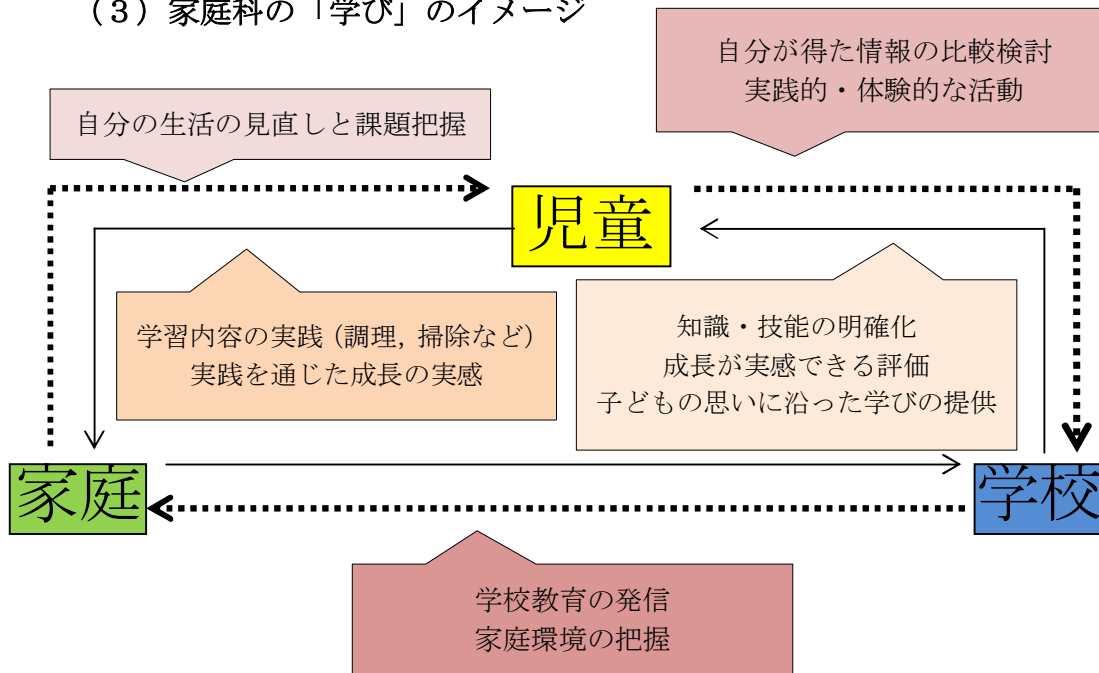
- i) 自分の生活を見直し、課題に気付く
- ii) 収集した情報を比較検討する。
- iii) 児童自身が計画、実践して振り返る。
- iv) 家庭で実践し、実生活での活用を実感する。
- v) 自分の成長を評価し、実感する。

このような段階を、言語活動を通して展開していくことである。

②「実践的・体験的な活動を通じた科学的な理解」とは

基礎的・基本的な知識・技能を実践的・体験的な活動を通して身に付けていく過程で、「なぜそのようにするのか」を理由付けて考え、実感を伴いながら科学的に理解できるようにすることである。

(3) 家庭科の「学び」のイメージ



(4) 仮説を検証するための視点と具体的な手立て

視点1 学びをつなぐ年間指導計画の工夫

〈手立て〉① 系統性を明確にした指導計画

- ☆ 学習の系統性・連続性を生かすことのできる題材配列
 - ・ 4年生までの学びとつながりのある題材の確認
 - ・ 2年間を見通した題材の配列, 構成の工夫
 - ・ マトリクス表の作成

視点2 実践意欲 (学び) を高める学習指導の工夫

〈手立て〉① 実生活との関連を図った問題解決的な学習の工夫

- ☆ 自分の生活を見直す時間の確保
 - ・ 学習の単元を自分の生活をふり返る活動から始めることで, 学習内容を自分の生活の課題と位置づけることができるようにする。
 - ・ 学習の導入に合わせて, 家庭での食生活などをノートにまとめておき, 学習内容との関連を図るようにする。

② 実践的・体験的な活動を通した主体的・協働的な学習の工夫 (言語活動)

- ☆ 自分の考えを書いたり伝えたりする時間の確保
 - ・ 自分の考えをワークシートやノートにまとめ, 発表に生かすようにする。
 - ・ 児童同士で対話できる時間を確保し, 自分の考えに反映できるようにする。
 - ・ 小グループでの話し合い活動を行い, 全員が発表できる場をつくる。

視点3 自分の成長を実感できる評価方法の工夫

〈手立て〉

- ☆ 相互評価, ふり返りの評価ができるような具体的な評価計画と規準の設定
 - ・ 家庭科ノートを活用した学習単元の始めと終わりで, どの程度自分に力がついたか, その伸びをふり返ることのできる二段階の評価設定を行う。また, 授業の終末に自己評価できる場を設定する。
 - ・ 発表を聞いて相互評価できるような評価の観点の共通理解を図る。

◇研究の実際

授業実践① 1, 2年生



【視点2】 実践意欲(学び)を高める学習指導の工夫

① 実生活との関連を図った問題解決的な学習の工夫

- 養護教諭との連携を図った授業の展開

☆具体的な取り組み

養護教諭の話から、3つの栄養についての働きや、バランスよく食べないと、病気になったり具合が悪くなったりすることを知り、好き嫌いしないで食べることへの意識づけをすることができた。

② 基礎的・基本的な知識・技能を明確にした題材の設定

- 赤・黄・緑の栄養の働きについての理解とワークシートの活用

☆具体的な取り組み

表を使って、前日の給食の食材を、赤・黄・緑の仲間に子どもたちが分けることで、それぞれの栄養の働きについて理解を深めることができた。

表を使うことで、3つの仲間や栄養についてより見やすく分かりやすく学習を展開することができた。今後、各学年の指導内容や目標等を、年間の計画の中に位置づけられるとよいと思う。

【視点3】 自分の成長を実感できる評価方法の工夫

本時の学習の最後に、これからどうしていきたいかワークシートに書いたことを発表した。今後、日常生活の中(給食・家庭での食事)の中で実践できるよう指導を継続したい。

授業実践② 4年生



【視点2】 実践意欲(学び)を高める学習指導の工夫

① 実生活との関連を図った問題解決的な学習の工夫

- おやつアンケートから、おやつ摂取への課題把握

☆具体的な取り組み

子ども達が本時の学習に課題意識をもって取り組めるよう、おやつアンケートを実施し、授業の導入で結果を発表した。アンケート結果を秘密にしていたので、興味津々という体で授業をスタートすることができた。

② 基礎的・基本的な知識・技能を明確にした実習題材の設定

- TTの良さを活かし、基礎的な専門内容を理解しやすくする授業形態の工夫

☆具体的な取り組み

本時は、カロリーの摂取のし過ぎが「生活習慣病」を引き起しやすくなる危険性を理解し、自分の食生活を見直す中で改善していくことを趣旨としている。そのため、生活習慣病になるメカニズムを養護教諭に、そのコーディネーター力を発揮してもらい、より理解しやすい言葉で説明してもらうことができた。

③ 実践的・体験的な活動における学習形態の工夫

- 小学4年生が1日に摂取できるおやつの分量を、実際に計測する活動

☆具体的な取り組み

4年生が1日にとってもよいおやつの目安は200kcalになるがイメージできるものではないので、実際にいつも食べているようなおやつの中から、自分が好きなものを選び、それを200kcalになるように分量を考えながら袋に入れさせた。「思ったより少なかった」との感想を持つ子、「組み合わせ方次第では、いつもより食べられそう」との感想を持つ子など、量として感じることもできたようである。

授業実践③ 5年生

【視点2】実践意欲（学び）を高める学習指導の工夫

① 実生活との関連を図った問題解決的な学習の工夫

○ 家庭科ノートを活用し、家庭生活と教室での学びを関連付ける。

☆具体的な取り組み

今年度は家庭科ノートを用いて学習を行っている。

本単元では、家庭での食事の内容を家庭科ノートにまとめ、それをもとに「食事ではどんなものを多く食べているか」と分析をする学習を行った。

自分自身の生活経験をふり返り、それをノートにまとめることで、日常生活から問題意識や課題をもち、それを授業の中で解決していく学習の流れを作ることができた。また、調理実習の記録や家庭での実践の計画をノートにまとめることで、家庭生活と学習とを結びつけることができた。

② 実践的・体験的な活動における学習形態の工夫

○ 自分の考えを深めるための、友達との対話を重視した学習。

○ 友達とかかわり合う中で学びを深めるためのグループ構成の工夫。

☆具体的な評価の取り組み

みそ汁の実の組み合わせや、切り方、入れる順序をノートにまとめて、3、4人の少人数グループの中で一人ひとり発表するようにした。

少人数グループにすることで、全員が自分の考えを表現することができたのと同時に、相手の発表を聞き、アドバイスし合う様子が見られた。児童が自分の実践計画をふり返り、修正を加えることができ、よりよいみそ汁作りの計画を立てることができた。



聞き合いながら話し合えるような対話ができるようにする必要がある。話し合いの視点をもっと教師から出すことも必要であった。

・友達同士でアドバイスをするために必要な生活経験や知識は十分でなかった。

【視点3】活用の楽しさを実感できる評価の工夫

① 自分の成長を実感できる評価方法の工夫

○ 家庭科ノートを活用した、各時間の自己評価

☆具体的な評価の取り組み

家庭科ノートに授業の感想や、調理実習の反省などを書くことでふり返りを行った。

家庭での実践を見据えた自己評価ができた。こうした書き溜めた自己評価は次時に「今日までの学習の足跡」といった形で使えたのもよかった。

一人ひとりがみそ汁の実の組み合わせや、切り方、入れる順序をノートにまとめることができた。

「おいしいみそ汁」を作るための視点を授業者が持っていることが必要である。

授業実践④ 6年生

【視点2】 実践意欲（学び）を高める学習指導の工夫

① 実生活との関連を図った問題解決的な学習の工夫

○ 朝食調べから朝食づくりへの課題把握

☆ 具体的な取り組み

山上小学校では、毎年「朝食を見直そう週間」の取り組みを行い、子ども達が朝食をとってきたか、また、栄養バランスはどうかといった観点でアンケートを行っている。アンケートを行った結果、この学年の子ども達は、朝食はほぼ全員とってくるが、栄養バランスが悪いという結果が表れた。そこで、今回の単元導入で子ども達に朝食調べを取り組むようにすることにより、普段、どのような朝食をとっているか改めてふり返り、単元の最後にふり返ることができるようにした。

□導入の流れと、児童の意識の変化

朝食調べの結果を表示する

- ・ 栄養のバランス

調理実習の様子を表示する

- ・ 見た目
- ・ おいしさ
- ・ 時間

保護者のアドバイスから

- ・ 気持ち
 - ・ 一手間加える
 - ・ 1品加える
 - ・ 好みを知る
 - ・ 簡単に
- (アンケート回答率73%)

授業後の学習ノート

- ・ 自分でも、朝食のメニューを提案してみたい。
- ・ 栄養のバランスを考えて、自分でも付け足して食事したい。
- ・ 朝食を少し変えた。

朝食の必要性
(食育の経験)

学習内容を生かす
(調理実習)

朝食に込められた
思い

【視点3】 活用の楽しさを実感できる評価の工夫

○朝食メニュー発表での、相互評価する場の設定

☆ 具体的な評価への取り組み

朝食メニュー発表では全員発表、そしてそれに対し、子ども達が観点に従って、意見を言い合う形にした。観点を明確にすることで、子ども達が意見を言いやすいようにするとともに、その観点に関する言葉を使うことによって、知識の定着を教師が評価できるようになった。

友達の発表を聞くときに、観点をもとに発表を聞き、それが観点に対して達成しているかどうか判断することで、お互いが考えた朝食の良さや足りない点について評価し合うことができた。それをもとにふり返り、自分の朝食のおかずメニュー見直しに繋げることができた。



◇ 家庭科教育研究部としての成果と課題

○成果 ●課題

【視点1】 学びをつなぐ年間指導計画の工夫

① 系統性を明確にした指導計画

- 本年度の研究を通して、次年度へ向けて具体的な単元計画表の作成が必要であるということが分かった。低・中学年からの学習の関連を大切にし、家庭科へと結びついてくる学習や、家庭科の学習が生かせる学習を順序よく配列するよう、次年度では作成していく。

【視点2】 実践意欲（学び）を高める学習指導の工夫

① 実生活との関連を図った問題解決的な学習の工夫

- 単元導入の際、自分の生活をふり返るところから始めることにより、自分の生活の課題を見つけてから学習に取り組むことで子ども達の意欲を高めることができた。
- 調理器具を使った手伝いをしない（高学年40%）というアンケート結果からも、調理実習後の実践が、一度きりになって継続していない様子が考えられる。どの程度実践が続いているか調査を行い、継続して取り組むことのできる内容、取り組みを個別に判断することが必要である。（下はアンケート結果）



② 実践的・体験的な活動を通じた主体的・協働的な学習の工夫（言語活動）

- 少人数グループでの話し合いや、個人活動を取り入れ、自分の考えを発表するために、友達と話し合いを深めることができた。
- 調理実習で作った料理の写真を撮り、次時に活用することで、自分達の取り組みをふり返り、彩りや見た目などの観点を見つけ出し、話し合いをすることができた。
- 話し合いの観点、思考の視点が少なくなってしまう話し合いの場が発表の場になってしまうことがあった。多角的な視点を持たせるような学習の取り組みにしなくてはいけない。
- 友達同士で話し合いをしたり、アドバイスしたりするためにはかなりの知識が必要であり、その力を高めていく必要がある。

【視点3】 自分の成長を実感できる評価方法の工夫

① 自分の成長を実感できる評価方法の工夫

- 家庭科ノートに自分の考えをまとめることにより、単位時間ごとに自己評価を行うことができた。そのノートを保護者に見てもらい、感想を書いてもらうようにすることで、子ども達の達成感、充実感があつたと考えられる。
- 作品製作では作り終えた達成感だけで、自分が具体的にどの程度できるようになったか、判断しにくいものもある。作品製作に関しては、具体的な見本を作成することが必要である。